

(議事について、事務局より説明)  
(会議の公開を決定)

**議題 1 神奈川県文化芸術振興計画（2019 年度～2023 年度）における進行管理について  
事務局から資料 1－1 について説明後、次のとおり審議を行った。**

**○伊藤委員**

それでは、御意見、御質問をお願いしたいと思うが、細かいところを議論する時間もないため、重点施策の実施状況、それから東京 2020 大会、また、進行管理のための参考指標等のところが評価の問題と絡んでくるので、このあたりに絞った形で御意見をお願いしたい。重点施策に関しては 3 ページに全体の総括が書かれている。あるいは個別の部分についても、それぞれの成果、課題、調査がまとめられている。気になった点や、疑問点があればお願いしたい。

**○坪井委員**

芸術家の地位に関する観点について、現在、ユネスコで 1980 年の芸術家の地位に関する勧告の実施状況に関する調査を実施中であり、特に工芸とか伝統文化の分野でのアーティストとしての地位や、彼らの社会的に置かれている状況等というのは、もう少し反映されても良いと思う。また、ウェルビーイングという福祉の観点、文化芸術の福祉の側面も入れ込んでも良いと思う。

**○伊藤委員**

ユネスコの方で議論されている芸術家の地位という問題を、特に伝統文化の継承者、その辺においてどうなっているのかということ。それからもう一つは、福祉というか社会的包摂に関わってくるようなところでウェルビーイングという考え方についての話であった。事務局においては何かこの点について意見はあるか。

**○事務局（香川国際文化観光局長）**

伝統芸能を守ることが表現の場の確保であるとか、そういうことで今取り組んでいる。今、御指摘があったとおり、携わる方々をどのように守っていくのかという視点についての意見であると受けとめた。考えていかなければならないということは認識をしている。あと、ウェルビーイングということで、誰でも文化芸術に参加できるということがそこに繋がるという認識を持っているところであり、その方向で行っているのが重点施策 2 の子どもでも高齢者でも参加できるような共生共創の考え方という点である。指摘を受けとめながら、次の展開を考えていきたい。

**○山田委員**

重点施策の個別についてではなく、資料 3 ページ下部の囲みの中について、4 行目に、新しい生活様式のもとで、という形で書かれているが、先ほど最初に局長の話もあったように、コロナ対策というよりは、むしろこれを機に、様々な創意工夫で新しい活動をしていくというのが、県としての考え方でもあり、むしろここで新しい生活様式のもとでというよりは、例えば、一層の創意工夫のもとでという言い方が、むしろ今後の広がりがあるのではないか。

**○伊藤委員**

コロナ禍において取り組まれたものというのは、たまたまコロナが促進したこともあり、デジタル化など文化芸術の新しい動きが促進されたと解釈すると、その点を積極的に強く評価していくことも良いと思われる。

## ○平本委員

東京2020大会とそれからコロナの関係、これが一番大きな出来事、要因であるが、伝統芸能の関係では、これまでになかった新しい形の発表の仕方がここでも取り上げられているが、コロナがなければ考えられなかったことである。コロナを契機としてオンラインというのは一般的になっている。今後も伝統芸能保存団体においても、オンラインという形式はこれから絶対に必要なパターンである。実公演がメインではあるが、補佐する形のオンラインもこれから進めていただきたく、行政の支援が欠かせないと思う。

## ○伊藤委員

昨年度の活動についての報告書であり、オリンピックとコロナが大きな柱になる。この二つは単にこの1年間の総括だけではなく、議題3で議論していく、新しい振興計画にも大きく関わってくる。未来を見据えた形での関わりであるため、今の発言の視点は議題3でも関わってくる。他になれば、議題1に関連する共生共創事業のロジックモデルについても事務局から説明をお願いしたい。

**事務局から資料1-2について説明後、次のとおり審議を行った。**

## ○伊藤委員

毎回このロジックモデルを取り上げているが、理由としては年次報告の57ページ以下にKPIとして数字的な形で事業の評価を測っている。これが従来からのやり方だが、これだけでは今後の課題が発掘しにくいこともあり、数年前から実施している共生共創事業について、いくつかの視点で成果をチェックしていく試行的なものである。そのような中で、これまでに何回か意見をいただきながら、項目数を増やすなどしてきたことで、課題が幾つか見えてきているのではないかと。これらを踏まえた上で、意見、アドバイス、或いは質問があればお願いしたい。なお、ロジックモデルは可能であれば伝統文化の継承問題、国際交流等いくつかの問題に関して作成し、複数の視点から短期的・中期的な成果を確認して、最終的な目標にどこまで近づけるのかを測れるようにしたい。

## ○中村委員

一覧にしてみると、改めて地域格差の問題が気になる。県内の人口の多い地域に文化事業が偏りがちであるという現状もありつつ、2019年から2021年にかけては県内の各所で実施している数字が少しずつ出てきているのが見えているというのは、すごく良いことであると思う。アウトプット、アウトカムの回数であるとか、やはり人口の多い地域に多くなっているが、人口が相対的に少なく実施回数も少ない地域で開催したときの参加者が多いこともわかり、ニーズがあるのではないかと、ということは推測できる。共生共創事業の全県展開を大事にいただけると良いのではないかと。

## ○坪井委員

文化資本へのアクセス、どのように享受し、共生共創社会、文化の多様性につなげていくかという点で、イギリスの社会学系の教育社会学雑誌の一論考では、芸術文化を1回のみ等単発的に享受することでは社会格差等の是正に効果がないことが報告されている。継続性が重要であり、この点を資料でどのように表していくかが課題であると思う。

## ○伊藤委員

現在は試行段階であるので、今後どの点に注意していくかということではないかと。個人的には、

アウトカムのところに、出演者、鑑賞者だけでなく、支えている施設、NPO、ボランティア等の方々の意識の変化も載せられると良いのではないかと。演じる人、見る人だけでなく、文化と一緒に作っていくためにはそれを支えていく中間の人が重要であると感じている。

### ○石田委員

年次報告書も含めてお話する。この2021年度の年次報告書は、非常に重要な位置付けにあると思っている。社会的な共通の事項として、大きな災禍に苛まれた。それに対して、神奈川県がどのように、対峙したのか、県民とともに対応していったのかということが、この報告書から読み取れる内容になっているか、という点で重要であると考え。個人的には読み取れる内容となっていると考えている。理由は、「新しい生活様式」というような、ここ数年のキーワードが落とし込まれている記録でもあり、報告書の役割は非常に大きいと考えるためである。そのような意味で、大事な報告書として我々も受けとめ、広めていく必要があると感じている。コロナは日本全国、世界全体で共通の事項であるが、東京2020大会は、特に日本がリーダーシップを執って世界とともに進めたプロジェクトであり、その中で神奈川県がどのような役割を担ったか、についてもコンパクトに記載されている。記憶を呼び起こすきっかけになるような報告書にもなっている。ロジックモデルについては、2018年からの歩みを凝縮しまとめられ、読み取っていけるものになっていると思う。コロナで落ち込んだ数値もあるが、新たに始めた試みも記載されている。「ともに生きる社会かながわ」という大きなテーマをこのロジックモデルの中から十分に読み取れる内容になりつつある。ロジックモデルというのは、この共生共創事業をこれから神奈川県としてどのように進めていくのか意思を確認し、その足跡を後づけていくために非常に重要な位置付けにあるものである。課題として、数字だけでなく、既に記載されている説明と各項目の関連を文言により補足してもらえるとわかりやすくなると思う。

### ○鈴木委員

障がい者関連の数字、対象者の数字は大変増えているが、障がい者の方がどのように受けとめられたかということを書き添えていただくと良い。障がい者も排除せずに、文化的なものを提供するというのもそもそもであったと思う。提供したところ、障がい者の方たちは私たちと変わらず、一緒に、感動を分かち合える存在だと健常者の方たちも思えるということが、共生の大事なポイントなのではないか。障がい者の方たちに何かを、私たちが与えるのではなく、同じ社会に生きる人として「ともに生きる」を実現することが一番の目標だと思うので、そういうコメントがあると良い。個人的な経験として、大分県別府市に「太陽の家」という施設があり、アメリカの音楽院から若いアーティストを呼んでコンサートをしたことがある。障がい者の方々に音楽を与えてあげようという考えで行ったが、重度の障がいの方が音楽を聴いて手拍子などの反応を見せ、アメリカの若いアーティストたちは音楽の可能性を再認識し、障害者の方が持つパワーをもらったと感じる機会であった。健常者が与えるだけでなく、障害者の方が持っている力をもらって相互に作用していくことが共生の将来的なあり方だと思う。その点で、伊藤委員の意見のように、中間の人についての記載があると、より一層目に見える形で効果が表れるのではないかと。思う。

### ○伊藤委員

時間的なこともありこのあたりで切りたいと思う。この2年間はコロナ、オリンピック等大きなトピックスがあった。数字的には、決してよくないので、KPI的な評価をするとこの2年間はあまり実りがなかったとなるわけだが、しかし違った切り口で見ると、これから先の時代に向けて新しい可能性というものを相当切り拓くことができた。種がまかれた時期ではないかという気がする。そういった部分を、年次報告書にそこまで書く必要はないかもしれないが、ぜひこれから先の計画づくりに反映できるような、総括を文章の中に少しでも入れていただくと良いのかなと思う。

気がした。では、年次報告に関する議題は終了して、議題2「マグネット・カルチャーの取組に係る検証について」事務局から説明をお願いする。

## 議題2 マグネット・カルチャーの取組に係る検証について

事務局から資料2-1、資料2-2について説明後、次のとおり審議を行った。

### ○伊藤委員

質問等を伺いたいですが、特にスライド番号16以降の評価の内容について、今後追加すべき分野やこれを神奈川県独自の文化展開として期待したいことなど、重点的に意見をいただければと思う。

### ○井上委員

令和4年度以降の展開の中で、パフォーミングアーツ・アカデミーの卒業生の登録制度というのは非常に良い取組だと思っている。事業を実施した後、大体5年とか10年とかそういうところで事業は区切られるが、その事業の参加者や、その成果をどのように社会に継続させていくかということが非常に重要だと私は常に考えており、アカデミーがなくなることを聞いた時に非常がっかりしたが、この制度があることによって、その卒業生が実際に、芸術分野で活動できるという場を県が用意してくれるというのは非常に良いことだと感じている。新しい舞台芸術の関係者を育成するという事業を展開されると書いてあるが、その先も同じような、卒業生なり、参加者の成果をつなげるという事業を続けていただきたい。

### ○伊藤委員

個人的な意見として、マグネット・カルチャーにふさわしいかどうかはわからないが、先日県民ホールでかながわ国際交流財団と神奈川芸術文化財団と大学との連携で、日本に住む、外国にルーツを持つ人たちと文化の関係に関するシンポジウムがあり聴講した。非常に貴重な機会であった。その中で、県立近代美術館が県内のいくつかの市の美術館と組んでMULPA（マルパ）という活動をしている。人を引きつけるマグネットの要素は弱いかもしれないが、神奈川らしい共生共創事業に関わってくるようなものとして、入れていくことはできないかと感じた。関連して、成果の数値が右肩上がりであることが強調される傾向があるが、量ではなく新しい動き、質について示していただける展開を考えていただけたらと思う。文学も重要ではないかと考えており、パフォーミングアーツに限らない分野にも目配りが欲しいと感じる。

### ○坪井委員

小田原では以前から、「マグカル」自体が知られておらず「マグネット・カルチャーとは何だろう」という声が大多数と感じることが多くあったが、市民会館が新たに三の丸ホールとして開館してから、置いてあるパンフレット等からもこのような催し物があると気付く人が増えていると感じる。包摂性、共生社会の観点から、社会的マイノリティの観点はあらゆる場に波及させていくべきと考える。また、二国間交流だけでなく多国間交流のもの、外国にルーツを持つ在日外国人を一層積極的に取り入れる視点が入るとより良いと思う。

### ○中村委員

これからの時代、情報発信について、振り返る時も、今後の計画を作る時も、もう少し腑分けして考えた方が良い。例えば、マグカルの資料の12ページで、吹き出しに2019年のプレビュー数が出ているが、プレビュー数については2020年に減りつつも、2021年には2019年を上回る数値を出している。この増加は評価できると考える。その際、2020年の減少は、イベントが中止になってイベ

ントの情報発信自体が減ったからと推測するが、2021年の増加はイベントが復活したこと、オンラインでイベントができるようになったこと、その両方があると考えられる。その場合、その二つを情報発信でくくってしまうのは、これからの時代はオンラインが継続されることもあろうことから、分析として雑になってしまう。イベント、コンテンツ、多文化対応、障がい者対応などの視点も情報発信に入ってくるが、情報発信で何をするのか、腑分けして取り組み、評価しないと実態を把握できなくなると思う。

### ○伊藤委員

資料17ページの課題の中で、東京2020大会のレガシーの問題、ウィズ・アフターコロナの問題などは、先ほどから出ているように、この2年間直面している問題で、次期の計画の中にも何らかの形で反映されていく課題ではないかと思う。この点について他に質問があればこの機会に押さえていきたいと思うがどうか。

### ○平野委員

マグカルと、それから今回の2021年度の事業報告ということで、私はもっぱらクラシック系の音楽を専門としているが、コロナ禍で中止、延期になったコンサートが非常に多かった。横浜で言うと、市立美術館とみなとみらいホールがリニューアルのために1年半以上休んでいる。この間にみなとみらいホールに足を運んできた中高年以上のコンサートファンの方から、もう外へ出るのが億劫になってきたという声を聞くことが非常に多くなった。コンサートも少ない上に、みなとみらいホールがリニューアルオープンしても非常に多くの聴衆が減ることが予測される。アフターコロナの時代に、舞台を見に行く人を引き戻す、引きとどめる方策が必要ではないか。オンライン配信で新しい形ができたが、ライブに勝るものはない。演奏会場にはないメリットをオンラインにプラスアルファ、付加して発信していく工夫も必要ではないかと思う。それから、アカデミー終了ということがある、このアカデミー卒業生を登録して、神奈川県広報媒体に採用していくというのは、ぜひやっていただきたい。かつて私は、南の島の、県の県立芸大にいた。音楽学生が大学院まで修了するが、県の中でプロのオーケストラがないため、県立の芸術大学を卒業した若者が県内にたくさんあふれているが就職先がない。県で、県内にプロフェッショナルなオーケストラを作ったときには、東京などの内地の音大を卒業した人がメインを占めてしまうことを経験した。アカデミーで、技術とか芸術を磨き上げた卒業生を単に登録するだけでなく、積極的に使っていくことができればこういったアカデミーを形の恒常的な機関として県が持っていて良いのではないかと感じた。

### ○事務局（楯屋舞台芸術担当部長）

この期間、マグネット・カルチャーの取組の中での事業については、事業を中止、延期したものはない。むしろ、今後さらに増やしていっているような状況。当然その参加される方の事情、コロナの事情で中止せざるを得ない、延期せざるを得ないケース、あるいは参加できないというようなケースが出ているが、それによって、事業自体をやめるというようなことは一切していないので、継続性は担保されると思っている。話題になっているマグカルパフォーミングアーツ・アカデミーの登録制度であるが、県立の青少年センターで行っている事業であるが、約8年、10年近くかけてやっていた事業であり、アカデミー自体は一旦これで打ち切ることはなるが、打ち切ったその後何もしないということではなく、この時代にそのあったような新しい形での修正した、次の世代を対象にした人材育成事業を、既に次年度より始める計画を立てている。人材育成事業についても継続性は担保されていると理解いただいて良いかと思う。

### ○伊藤委員

時間的の都合もあり議題2については以上とする。では、議題3「かながわ文化芸術振興計画改

定素案作成に向けた整理について」を進める。前回の審議会で計画改定見直しスケジュール案が出ており、今日は社会状況の推移、施策体系を検討していく。今年度は来年1月に重点論点を議論したい。それを受けて、令和5年度には3回の審議会を予定し、5、6月ごろに骨子案を審議、9月に素案を審議、令和6年2月に最終案を審議することで進めていく。今回は計画改定の第1回であり、今後の議論のベースとなる部分についての検討に入っていきたい。事務局から説明をお願いします。

### **議題3 かながわ文化芸術振興計画改定素案作成に向けた整理について**

**事務局から資料3-1、資料3-2、資料3-3について説明後、次のとおり審議を行った。**

#### **○伊藤委員**

それでは御質問、御意見をお願いしたいと思うが、まず文化芸術を取り巻く状況の変化に関して、前回は、前文の後、9項目にわたって書かれていたが、今回は7項目に整理されている。気になった点、このような点は背景として踏まえる必要があるという追加点があればお願いしたいと思う。大きく変化しているのは、2番目の新型コロナウイルスの話が入っていて、それから、文化観光推進法について、あるいは博物館法の改正について触れている。結構重要な問題として文化部活動、まずスポーツもだが、教員の負担軽減ということが名目となって、地域に移行していこうという動きが、国を挙げて進んできている。これについて県として対応していくというような考え方が上がっているが、この問題について御質問、御意見をいただきたい。

#### **○坪井委員**

文化芸術を取り巻く状況の変化の中で、項目6「文化観光推進法の制定及び博物館法の改正」とあるが、8月24日に国際博物館会議において新しいミュージアム定義が採決された。特に、新たに盛り込まれた大切な視点として包摂性、コミュニティへの参画、持続可能性がある。このような観点、ミュージアム全体の世界的な動向も加味して議論できると良い。また、今回落ちた項目として、現計画の項目9文化交流を通じた東アジア諸国との連携の必要性について、多国間交流は重要な観点かと思う。地域レベルの交流は非常に大切。この項目を落としてしまうのはもったいない。

#### **○伊藤委員**

国際博物館会議の定義は研究者の間で注目されてきている。欧米の動きとしては、ミュージアムも含めて、劇場なども入ってくると思うが、インクルージョンの要素、あるいはコミュニティとの繋がりを強調しているところが注目される。日本の動きだけでなく、世界の動きについても触れたほうが良いのではないかという意見であった。

#### **○久野委員**

2024年から始まることを考えると、項目1「東京2020大会後のレガシーの創出」は、すでに創出し終わっていて、むしろレガシーが見えていなくてはいけない。これから考えていくべきことは、レガシーをどのように継承、発展、定着させていくことができるかという点。そのため、この項目は再考すべきと考える。また、新型コロナウイルス感染症による影響は続いているかもしれないし、収束しているかもしれない。民間の文化芸術活動からも新しいアイデアの事業がいろいろ誕生していくので、それを推進し支えていくということは、もちろんすごく必要で、そのことが項目2に書いてあるが、もう一つ重要なのが、観客がすごく減っているということ。どのようにして観客、それから県民の方々に、その芸術文化の楽しさや、生活にどのように潤いを与えてくれるものなのか、共生社会を作っていくものなのかを伝えていくか。観客の方々の声を取り込んでいくことが重要になる。観客＝県民であるが、これから観客＝創作者になるかもしれない。作り手と観る人の垣根が近づいている、その点を見据えた形での書き方のほうが、未来が見えてくるのではない

か。

## ○平野委員

文化芸術を取り巻く状況の変化の現計画の項目9「文化交流を通じた東アジア諸国との連携の必要性」について、日本では難民の受入れをしているが、ロシア・ウクライナの問題によりキーウ国立バレエ団、ボリショイ、ロシア系・ウクライナ系のアーティストが全然世界で動けない状態になっているが、2024年度から5ヵ年計画であるとそのような人たちも動き出すはずであり、文化交流、地域交流として項目の一つとしてあっても良いかと思う。

## ○事務局（赤池文化課長）

資料3-1について、前回の計画から新たな計画を作るに当たり、社会環境がこう変わったのでそこを汲み取って、次の重点施策はこういう形で変えた方が良いという繋がりの中で考えている。例えば、新型コロナウイルスによる影響があり、民間団体等を支援しなければいけないということが見えてきたので、資料3-2の重点施策5では、「創作活動のための環境整備」として、そこでしっかり支援していくことが必要であろうと、社会環境の変化を踏まえ整理をしている。資料3-1項目6文化観光推進法の関連として、資料3-2重点施策4の中で新たに少し文化ツーリズムという言葉も出していきべきかということも考えている。そのような中において、項目9の国際交流について、いらなくなったということではなく、前回計画を作成するに当たっては、社会状況の変化として入れる契機があり項目出しをしているが、新たな計画においても引き続き重要だと考え、重点施策には入れている内容である。新規の内容ではなくなったので、社会状況の変化からは項目を落としたところではあるが、重点施策には引き続き位置づけることから考えると、時点修正をして視野に入れて取り組んでも良いかと思っている。御意見いただいたレガシーの創出の件については、創出を継承に置き換えるなど考える。

## ○伊藤委員

社会状況の変化については、前提であって施策の内容を語るわけではない。しかし、今、指摘のあった部分については、計画が5年間であり、先の見通しを考えていくと、もう少し広い目で見ただ方が良いのではないか。そういう時に国際的な動きというのは一つ重要ではないか。地域においては、コミュニティの問題というのが重要になってくる。国際的な視点からいくと、例えば、平野委員が言われた国際交流の問題もあり、その前に触れられた難民という言葉も出てくるが、先日の県民ホールであった会議でも、今、日本で暮らしている外国人の数が思ったより増えてきて、2%近い数字になってきている。こういったことを考えていくと、今から6年後ぐらいには、日本の人口の4%、5%ぐらいに達している可能性が高い。神奈川県は中でも高い方の数字を示すに違いないと思っている。そうなってくると、海外の人との付き合いだけではなく、日本で暮らす外国人に対する視点を社会環境の中にも含めても良いのではないか。そのような形で見直していただいて、今現在の動きから更に踏み込んでいくと、4、5年後にはどのような状況になってくるかという形で書いていただければ良いのかな、という気がする。項目4に関連して、石田委員は国の方の専門でもあり、この議論もされているのではないかと思うので、補足しつつ意見をお願いしたい。

## ○石田委員

まず、項目3「県内の人口減少・高齢化」について、非常に大きな課題だと思う。他県であるが、人口減少が甚だしく、県庁所在地でもドーナツ化現象で、市内の中心部に人がいない。シャッター街になっており、ホールまで歩いて来られる人が著しく減ってしまった状況を見てきた。県内各地でこれから起きてくる、又は既に起きているであろう同様の事象について、危機感は共有しなければいけない。人口減少、高齢化の県内東高西低のような状況は文言として入れても良いかと思う。

項目4について会長から指名を受けたが、私は国の文化審議会の文化政策部会の委員をずっと務めており、そこでは、2023年度から5ヵ年程度、有効となる第二期の基本計画を策定中である。国でどのような議論が行われてきたのか、還元するようにしたいと思っているが、まだ国の会議は始まったばかりであるため、次回お話ししたい。

### ○伊藤委員

重点施策についても見ていきたい。重点施策1はそのまま継承、前計画の重点施策2は子どもと高齢者・障がい者に分けている。子どもの問題は、ここには文章として入っていないが文化部活動の地域移行なども絡んでくるかもしれない。広い角度で見ていく必要があるのではないかとこのことで独立させている。同時に、高齢者・障がい者等インクルージョンの問題というものも独立して新しい施策の柱にしている。前計画で国際交流とかオリンピックで関わっていた内容等が、重点施策4の方に、国際と文化観光との連携という形で入ってきている。文化ツーリズムとあり、この言葉については事前の打ち合わせの時に議論にもなった。重点施策5として環境整備。今までは箱物が強かったが、「創作活動のための環境整備」という形で項目が入ってきている。今日のメインはこの点を固めて次の議論につなげることであるため、意見をお願いしたい。

### ○志澤委員

資料3-1の項目2コロナの影響についてであるが、少し落ち着いてきて合唱のイベントも、神奈川県合唱連盟はこの3年間ほぼ中止はしないで、オンラインなどの形で、ほぼ全部イベントを行ってきた。今年になってからはマスクをしたままという制約はあるが対面で実施。イベントが復活してきているようだが、実はイベント自体は開催しているが、今までの6割、7割しか参加がないとか、それぞれの団体の参加人数がやはり6割、7割に減っている。つまり、イベントをやっても、赤字になってしまう。ここ2年間300万ずつの赤字を出している。今年も黒字になりそうもないというのが現状。だから、それほど演奏会などが復活してきているといえる状況ではない、というのを御理解いただきたい。資料の3-2について、重点施策の2のところにも子どもの芸術活動とある。ご存じかと思うが、例えば小学校3年生でみんなリコーダーを練習始めるけれども、この3年間ほとんどのところが、リコーダーの指使いだけ練習している。吹いてはいけないため、音を出していない。音を出さないで何ができるのかと言いたい。卒業式などでも、校歌を歌ったつもりでいてくださいと。声を出しては駄目。そういうことも、この3年間ぐらい続いているわけである。そうすると、子どもたちがしっかり呼吸をするということをしていない。呼吸器官をしっかり育てなければいけないときに、深い呼吸、しっかりと声を出すということをしていない。これで、将来、子どもたち大きくなって大丈夫かなと不安に思っている。重点施策の3に高齢者の文化活動というのが書いてあるが、今申し上げた状況によって、高齢者の合唱団がつぶれてなくなっている。現実的に活動ができない。3年間活動がなかったら、年も3歳重ね、歌いにくくなることもあるかもしれないが、コロナの影響で、練習会場は貸してくれない。歌おうとすることに家族に反対される。そういうことの繰り返しで、解散してしまった合唱団がいっぱいある。県連の所属団体数も大幅に減っている。そういう現状を御理解いただいて、施策の5に芸術の振興を推進するための環境整備と、ぜひしっかりやっていただきたいとお願ひしたい。

### ○坪井委員

重点施策2の「子どもの文化芸術活動の充実等」について、文化芸術に関わる方々のキャリア形成、芸術家としてどのように生きていくかという社会的地位の話ともつながる非常に重要な点だと思う。日本の場合、アマチュアの裾野が広いということが強みである、一方、弱みにもなり得る。アーティストとしていかに生きていけるか、そのような生き方を支える土壌が社会にあるのかどうかということがコロナ禍でも随分議論されてきていると思うが、ここは与えるだけの文化芸術とい

う享受論だけでなく、享受・消費する側の意識醸成や文化芸術を生み出す側の文化従事者のキャリア形成等についても可視化されても良いと思う。

**○伊藤委員**

次の審議会でも更に深めた議論をしていきたいと思う。時間の都合もあり、議題3については以上とする。次第「その他」の事項として2項目あるので、最初に「文化芸術振興審議会団体助成部会の実施状況について」事務局から説明いただきたい。

**その他 文化芸術振興審議会団体助成部会の実施状況について**

**事務局から資料4-1、資料4-2について説明後、次のとおり審議を行った。**

**○伊藤委員**

この件について質問があればお願いしたい。無いようであれば、説明のような状況であることについて御理解いただければと思う。次に、「参考情報提供について」事務局から御説明をお願いしたい。

**その他 参考情報提供について**

**事務局から参考資料1、参考資料2、参考資料3、参考資料4について説明後、次のとおり審議を行った。**

**○伊藤委員**

特に御意見がなければ、本日は終了する。